国際日本研究センター International Center for Japanese Studies

国際日本語教育部門主催研究会

「多様化する日本語教育」

～日本語教育現場の声を聞く～
第５回　研究会

2022 年 1 月 27 日㈭ 13：00～14：30

Zoom にて

現在日本語教育は、地域、対象、目的、学習者、学習方法、教師などさまざまな面において多様化しています。現場の視点からそれらの多様化の状況を共有し、今後の日本語教育についてともに考えるための研究会を連続して開催しています。5 回目の今回は、本学が生涯学習の場として世界の日本語学習者向けに開講している講座「TUFS オープンアカデミーオンライン日本語講座」の講師４名に実践報告をしていただきます。

テーマ

「生涯学習のためのオンライン日本語教育」

13：00～13：15　趣旨説明（本学国際日本研究センター　大津友美）

13：15～14：00　実践報告会

14：00～14：30　質疑応答及びディスカッション

報告者

守屋久美子氏（本学大学院総合国際学研究科国際日本専攻博士後期課程）

紺屋洋亮氏（本学大学院総合国際学研究科国際日本専攻博士後期課程）

佐藤茉奈花氏（本学大学院総合国際学研究科国際日本専攻博士後期課程）

熊田道子氏（本学非常勤講師）

◆　事前申し込み方法　◆

以下のリンク先または QR コードより事前お申し込みをお願いいたします。

https://forms.gle/Jvr1fivsEnZUPtTF7（ 締切：1 月 26 日（水）17 時まで ）

事前申し込みをされた方に、研究会の前日 1 月 26 日に ZOOM リンクと案内文を送信する予定です。

主催：東京外国語大学　国際日本研究センター　国際日本語教育部門

伊集院郁子　大津友美　佐野洋　鈴木智美　鈴木美加　望月圭子

お問い合わせ：国際日本研究センター　042－330-5794　info-icjs@tufs.ac.jp

…■　趣旨説明　■…

大津友美

東京外国語大学「TUFS オープンアカデミー」では、日本語講座と日本語で日本について学ぶ教養講座をオンライン開講している。生涯学習のための講座であるため、受講者は学生、社会人など様々である。また、日本国内だけでなく海外からの参加者もいる。そのように様々な背景を持つ学習者が集まり、オンライン上で共に学ぶクラスにおいて、教師はどのように学習者の多様さ、オンライン状況であることに対応しているのであろうか。4 名の教師の教育実践報告を通して、生涯学習のためのオンライン日本語教育で教師にできる工夫について考えたい。

…■　実践報告　■…

守屋久美子「日本語 × 自分 × 他者　生涯学習としてのゼロ初級における実践」

生涯学習としての日本語学習は「自分を表現し、他者を知る」手段となりうると考える。その目標達成のために、世界各国に暮らす学習者に対してゼロ初級の段階で実践しているインフォメーションギャップを活用した教育事例を紹介する。特に、グーグルマップなどインターネット上のリソースを活用した活動例についても焦点を当てる。

紺屋洋亮「オンライン日本語授業の実践報告―生涯学習として学び続けるために―」

本発表では、初中級 I クラスでの実践について報告する。特に、生涯学習やオンライン授業という位置づけから学習を継続するための工夫に焦点を当てる。世界の様々な場所から受講していること、常に十分な学習時間が確保できるわけではないこと、こうしたことを踏まえたタスク活動や、授業後も活用できる教材について考える。

佐藤茉奈花「初中級2クラスでの実践報告　受講者の多様性への対応」

生涯学習としてオンラインで日本語を学ぶ受講者は、出身や居住地に加え、目的や動機もそれぞれ異なっており、まさに「多様」である。本発表では、その多様性を生かして行った活動を紹介する。また、授業を行うことで見えてきた課題について報告する。特に、多様な受講者にとって「初級後半レベル」で必要な文型とは何か、使用教材にあるどの文型をどの程度扱うべきか、考える必要があると感じている。

熊田道子「多様な学習者と生涯学習としての近現代小説」

本発表では、「日本の近現代小説を読む」クラスについて、コースシラバスの作成、実際の参加者とコースシラバスのすり合わせ、授業の様子、大学学部生の授業との差異等について報告する。本クラスは、今期始まったばかりのクラスであるため、年齢や国籍や知識といった背景の異なる学習者と共に、どのようにコースを組み立てながらクラス活動を行っているのか、途中経過を報告する。